

・1 ページ、中段上から 1～10 行目

「先日、…大きなものだったと感じている」を、「マグニチュード 9.0 というのは、発生エネルギーだけで比較すると、最大規模の水爆の 10 倍、広島に投下された原爆の 50000 倍に相当する。このように東日本大震災のパワーは想像できないほどに大きかった」に訂正します。

・1 ページ、中段上から 13～右段上から 12 行目

「以前から…被害を受けてしまった」を、「明治(1896 年)、昭和(1933 年)の津波で被害を受けた岩手県宮古市田老地区(旧田老町)は、「万里の長城」と呼ばれる、高さ 10m にも上る巨大な防潮堤を築いた。これを見たときは、さすがにこれを超える津波は発生しないだろうと感心した。しかし、テレビなどの報道で他の街と同様に大被害を受けている状況を見て、自然の凄まじさに恐ろしくなった」に訂正します。

・1 ページ、右段上から 14～26 行目

「福島第一原発の影響…安全対策が施されている」を、「多くの設計者や研究者から、なぜ福島第一原発が被災して、福島第二原発や女川原発が無事だったのか、さまざまな見識を伺った。当初、福島第一原発の原子炉が旧型で設計に問題があったのかもしれないと思っていた。新型の方が原子炉の構造物に、『地下室』のように空洞が空いているので、そこで水勢が弱まると解説してくださる方もいらっしやった。しかし、結局はディーゼルエンジンの設置面を海面から高く設定していることが無事である理由だったようだ。一方で、福島第一原発の 1 号機から 4 号機はディーゼルエンジン 8 基すべてが地下室にあった。5 号機・6 号機や福島第二原発は、数台のうちの一部のディーゼルエンジンが幸いにも無事だったため、停止後に大きな崩壊熱が発生してしまう事態を防げたようだ」に訂正します。

・2 ページ、左段上から 13～22 行目

「たとえば、…安全性を確保できる。」を「東京大学本郷キャンパスがある東京都文京区では震度 5 弱の揺れが発生し、本棚の転倒防止のフックが外れて、転倒した本棚もあった。フックを止めるねじが石膏ボードについており、揺れでねじが抜け落ちてしまったためだ。そこで、2 枚の木の板を隣の部屋と当研究室に設置して、石膏ボードを長いボルトで挟み込む改善策を施す予定だ。なお、コンクリート壁に打ち込んだねじは抜けず、安全性が高かった。」に訂正します。

・2 ページ、中段上から 16～20 行目

「過去にも…素晴らしい例がある」を「太平洋戦争後の広島と長崎の復興は、日本人の誇りだと思っている。被害を受けてから即座に復興を開始し、10 年を待たずに街を取り戻した。一方で、放射性物質の量を比較すると、当時の原爆は約 10kg で、福島第一原発は、

その 1000 倍程度ある。東京電力の今後の活動で、物質をしっかりと閉じ込められるよう、祈っている」に訂正します。

・ 2 ページ、右段上から 9～17 行目

「EU に加盟している…作ってはならないということ。」を、「当委員会の規制制定の仕方から学ぶことは多い。欧州規制は、設計解ではなく要求機能で規制を行っている。たとえば、高齢者が座るときに転倒するような椅子が対象の場合、足を 50cm 横に踏ん張れ、というような形状に関する規制は行わない。錘を衝突させて、それでも横転しないこと、というように評価テストの規制を行う。このようなことを踏まえて、」に訂正します。